

## 学会だより

### ◇ 常任幹事会議事録

開催日時：2010年3月13日 14:00～18:00

開催場所：東京大学農学部

出席者：会長 長戸康郎，副会長 倉田のり，矢野昌裕，奥野員敏，伊藤純一，寺地徹，鳥山欽哉，佐藤豊，乙部千雅子，小松田隆夫，田口文緒，安井秀，佐々英徳，久保山勉，中園幹生

各常任幹事からの経過報告後，会長解任に関する内規の制定，平成21年度決算および平成22年度予算，育種学会における遺伝資源の「アクセスと利益配分」(ABS)に係る事項，記者発表課題の選定方法，平成22，23年度BS特集号，英文誌編集委員の追加，2011年春季大会・秋季大会および2012年春季大会の開催地，総務第2の新設とその任務，講演会要旨集の価格の公表，講演会英文タイトルのホームページ掲載法，科学技術振興機構(JST)からの講演要旨集送付に関する依頼，幹事会の議題，総会の式次第に関して討議を行った。

### ◇ 幹事会議事録

開催日時：2010年3月25日 15:00～17:45

開催場所：京都大学農学部

出席者：会長 長戸康郎，副会長 倉田のり，久保友彦，三浦秀穂，原田竹雄，半田裕一，江面浩，岩田洋佳，新倉聡，石坂宏，金子幸雄，吉田薫，中園幹生，宍戸理恵子，村井耕二，松岡信，清水顕史，長谷川博，加藤鎌司，佐藤和広，安井秀，穴井豊昭，和田卓也，田浦悟，伊藤純一，寺地徹，小松田隆夫，田口文緒，乙部千雅子，久保山勉，佐々英徳，阿部純，貴島祐治，金澤章，阿部利徳，千田峰生，岩永勝，田部井豊，阿部知子，中村郁郎，多田雄一，有村慎一，芦荻基行，小島昭夫，北野英己，奥本裕，武田真，坂井真，草場信，野々村賢一，横井修司，那須田周平，友岡憲彦 計53名

委任状：喜多村啓介，佐野芳雄，高畑義人，五十鈴川寛司，鳥山欽哉，菅野明，奥野員敏，渡邊和男，木庭卓人，荻原保成，平田豊，掛田克行，大村三男，築山拓司，寺石政義，富田因則，西尾剛，安東郁男，大澤良，齊藤大樹，辻本壽 計21名 総計74名

#### 1. 各常任幹事経過報告・関連報告

1) 総務(中園)：2010年3月1日時点の会員数は2,030名であり，平成21年度の1年間を通して会員数が2,000～2,100名で推移したことが報告された。

2) 科研費・農学会(伊藤)：(1) 科学研究費(a) 研究成果公開促進費(学術定期刊行物)：2009年11月10日に平成22年度科研費「研究成果公開促進費(学術定期

刊行物)」の申請書を提出したこと，2010年1月14日に平成21年度科研費の状況報告書を提出したことが報告された。(b) 研究成果公開促進費(研究成果公开发表(B))：2009年11月10日に平成22年度科研費「研究成果公開促進費(研究成果公开发表(B))」の申請書(課題名：健康な暮らしと未来の植物—研究者が描く夢の植物—)を提出したことが報告された。(c) 平成21年度科研費「研究成果公開促進費(学術定期刊行物)」の内部監査(2010年2月26日実施)，外部監査(2010年3月1日実施)が行われ，科研費の適正な管理が認められたことが報告された。(2) 農学会 2009年10月10日に平成21年度日本農学会80周年記念シンポジウム「世界の食料・日本の食料」が開催され，日本育種学会推薦の岩永勝氏(作物研究所)が講演題目「食糧危機を克服する作物育種」で講演したことが報告された。また，日本育種学会から平成22年度日本農学賞候補者として推薦された佐々木卓治氏(農業生物資源研究所)が，課題名「イネゲノム全塩基配列解読とその利用に関する研究」で平成22年度日本農学賞・読売農学賞を受賞されたこと，2010年4月5日に開催される平成22年度日本農学会大会において，日本農学賞授与式，読売農学賞授与式，受賞者講演会，受賞祝賀会が行われることが報告された。

3) ホームページ(寺地)：平成21年度のホームページのアクセス数が年間5～6万件であること，新着情報の更新件数が52件であったことが報告された。

4) 地域活動(各地域幹事)：北海道地区では，2009年12月5日に北海道大学において日本育種学会・日本作物学会北海道談話会の講演会・総会および北海道談話会会報50号記念講演会が開催されたこと(久保)，中部地区では12月5日に静岡大学農学部で育種学会中部地区談話会が開催され，参加人数は92名であったこと(伊藤(代理))，中国・四国地区では11月26日に日本作物学会四国支部・日本育種学会四国談話会合同シンポジウム，および11月27日に第74回日本育種学会四国談話会講演会が徳島県立農林水産総合技術支援センター農業研究所において開催され，それぞれの参加人数は約80名，約30名であったこと(加藤)，九州地区では12月11日に九州沖縄農業研究センターで九州育種研究会が開催されたこと(安井)が報告された。

5) 編集英文誌(田口)：Breeding Science 59号(2009年)および60号(2010年)の投稿・審査状況に関する報告のあと，2010年1月のPDFファイルダウンロードの件数が6,000件を超えたことが報告された。

6) 編集和文誌(安井)：育種学研究11号(2009年)および12号(2010年)の投稿・審査状況に関する報告があった。また，「育種学研究」がJSTで電子アーカイブ

化されることが報告された。

- 7) 集会 (久保山) : 今大会 (京都大学)・次大会 (秋田県立大学) 開催に関する報告があった。今大会の講演題数 (予定) は 319 題 (口頭発表 179 題, ポスター発表 140 題) であることが報告された。
- 8) シンポジウム委員会 (佐藤) : 日本育種学会シンポジウムの総括およびシンポジウム委員会の引き継ぎ事項として, 委員会の実務関連事項・財政について, シンポジウムの内容の深化・改善について, 日本作物学会・日本育種学会合同シンポジウムについて報告があった。
- 9) 男女共同参画推進委員会 (吉田) : 2009 年 10 月 7 日に東京工業大学蔵前会館で開催された第 7 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムでポスター発表をしたこと, 平成 21 年度の日本育種学会での活動 (第 3 回ランチョンセミナーを日本作物学会と合同開催したこと, 女性の登用状況, HP 更新, 春季大会の保育室開設および秋季講演会での一時保育施設斡旋と援助), 講演会 2 日目 (3 月 27 日) にランチョンセミナーを開催することなどが報告された。
- 10) 記者発表報告 (伊藤) : 3 月 18 日にマスコミ 5 社に対して 4 件の学会発表課題の記者発表を行ったこと, 新聞に記事が掲載されたことが報告された。

## 2. 議事

- 1) 平成 22 ~ 23 年度の役員 (指名幹事・常任幹事) について

平成 22 ~ 23 年度の役員 (指名幹事・常任幹事) の紹介があり, 承認を受けた。

- 2) 第 7 回 (平成 21 年度) 論文賞の選考

論文賞に関して学会賞等選考委員会より推薦された候補について投票を行い, 次の 3 件が論文賞に決定した。

〈日本育種学会論文賞第 13 号〉

論文名 : A major QTL, *qPDH1*, is commonly involved in shattering resistance of soybean cultivars

著者名 : Tetsuya Yamada, Hideyuki Funatsuki, Seiji Hagihara, Shohei Fujita, Yoshinori Tanaka, Hiroyuki Tsuji, Masao Ishimoto, Kaiken Fujino and Makita Hajika

掲載号・頁 : Breeding Science 59(4): 435-440

〈日本育種学会論文賞第 14 号〉

論文名 : A novel mutant gene for (1-3, 1-4)- $\beta$ -D-glucanless grain on barley (*Hordeum vulgare* L.) chromosome 7H

著者名 : Takuji Tonooka, Emiko Aoki, Toji Yoshioka and Shin Taketa

掲載号・頁 : Breeding Science 59(1): 47-54

〈日本育種学会論文賞第 15 号〉

論文名 : A novel quantitative trait locus, *qCLI*, involved in semi-dwarfism derived from Japanese rice cultivar Nipponbare

著者名 : Kiyosumi Hori, Toshio Yamamoto, Kaworu Ebana,

Yoshinobu Takeuchi and Masahiro Yano

掲載号・頁 : Breeding Science 59(3): 285-295

- 3) 平成 22 年度学会賞選考委員 (6 名) の選出

平成 22 年度学会賞等選考委員 (6 名) に関する投票が行われ, 6 名が同委員に決定した。なお, 委員長は内規に従い副会長が務める。

平成 22 年度学会賞等選考委員 : 奥野員敏 (委員長), 岩永勝, 西尾剛, 荻原保成, 奥本裕, 鳥山欽哉, 北野英己 (次点 : 村井耕二, 辻本壽, 大澤良)

- 4) 平成 22 ~ 23 年度のシンポジウム委員 (5 名) の選出

平成 22 年度シンポジウム委員 (5 名) に関する投票が行われ, 5 名が同委員に決定した。

平成 22 年度シンポジウム委員 : 大澤良 (委員長), 村井耕二, 辻本壽, 金澤章, 安井秀 (次点 : 武田真, 芦刈基行, 貴島祐治)

- 5) 平成 21 年度決算報告, 監査結果

平成 21 年度の決算報告がなされ, 実際の収入が予算額よりも約 400 万円増となっているのは国際コムギ連シンポジウムからの出版助成金であることが説明された。また, 2010 年 2 月 26 日に平成 21 年度の会計幹事による会計監査が実施されたことが報告された。平成 21 年度決算について, 原案通り承認された。

- 6) 平成 22 年度予算案の検討

平成 22 年度の予算方針として, 科研費による助成金補助はゼロ査定で予算を作成したこと, 出版助成金として英文誌増号 (特集号) に対する NBRP からの助成金があることが説明された。男女共同参画活動費の増額が要望され, 予備費から増額分を差し引くことを承認し, 最終的に平成 22 年度予算案全体が承認された。

- 7) 会長解任に関する内規の制定

日本育種学会が学術研究団体として健全なものであるためには, 会員が学会の運営に参加する権利を保障する必要がある。この権利は, 幹事選挙, 会長/副会長選挙への参加という形で一部担保されているが, 会長解任に関する規則がないため, 重大な問題が生じても会長を交代させることができない。これは, 規則としては不完全であり, 会員の権利を十分に保証するものではない。このことを踏まえ, 現在の内規に「会長の解任に関する事項」の追加が提案され, 承認された。

### ◎追加内規

#### D 会長の解任に関する事項

1) 会長が学会に対し重大な損害を与えた, あるいは与える蓋然性が高いと判断される場合には, 全幹事の 2/3 以上の賛成で, これを解任することができる。

2) 会長の解任が必要であると認められる場合は, 10 名以上の幹事の連名により, 理由を記した解任要求書を副会長に提出する。

3) 解任要求書が提出された場合, 副会長は, E1) の規定に拘らず, 幹事会を招集する。全幹事に, 解任要求理由および会長の弁明を開示し, 十分な議論を行っ

た後、採決を行う。必要な場合には、副会長は調査委員会を設置し、当該案件に関する意見を求めることができる。

4) 採決は郵送による無記名投票により行う。投票票事務は、副会長の名において庶務幹事がこれに当たる。

5) 会長が解任された場合、当面、副会長がその職務を代行する。

6) 会長の任期の残任期間が1年以上の場合は、直ちに会長選挙を行う。残任期間が1年未満の場合には、副会長が代行を続ける。

8) 編集委員会に関する内規の制定

和文誌と英文誌の編集委員会が一つになったことにより、内規「A.会の事業に関する事項」に関する改定案が提案され、承認された。

◎現行内規「2)学会誌として、英文誌 Breeding Science (育種学雑誌) および和文誌育種学研究 (Breeding Research) を原則としてそれぞれ年4回発行し、その業務は各誌編集委員会が行う。英文誌編集委員会は編集委員長1名と編集委員約20名で構成され、責任編集体制とする。和文誌編集委員会は編集委員長1名と編集委員若干名で構成される。」

◎改正内規「2)学会誌として、英文誌 Breeding Science (育種学雑誌) および和文誌育種学研究 (Breeding Research) を原則としてそれぞれ年4回発行し、その業務は編集委員会が行う。編集委員会は編集委員長1名と編集委員約30名で構成され、責任編集体制とする。」

9) 英文誌編集委員の追加

友岡憲彦氏 (農業生物資源研究所) が次期の英文誌編集幹事に指名されることに伴って、友岡氏を英文誌編集委員に追加することが提案され、承認された。

10) 男女共同参画推進委員会委員の交代について

平成22年度より男女共同参画推進委員会委員が勝田真澄氏 (委員長)、大澤良氏、奥本裕氏、船附秀行氏、宍戸理恵子氏に交代することが提案され、承認された。

11) 平成23年度春季大会開催地について

平成23年度春季大会の開催を横浜市立大学 (大会委員長: 荻原保成氏) に依頼することが提案され、承認された。

12) 平成22年度秋季大会のシンポジウム課題の選定

平成22年度秋季大会のシンポジウムの課題として、「育種における個体選抜とゲノミクス、責任者: 矢野昌裕 (生物研)・松岡信 (名大院・生命農学)」、「米の食味、品質成分に関する最近の研究とその応用、責任者: 阿部利徳 (山形大・農)・鈴木保宏 (農研機構・作物研)」、「根型育種をめざした研究の現状と今後の課題、責任者: 佐藤雅志 (東北大院・生命科学)」の3課題がシンポジウム委員会で選定されたことが説明され、承認された。

3. その他

- 1) 第117回講演会 日本育種学会優秀発表賞の投票方法について  
幹事に日本育種学会優秀発表賞の投票用紙を配布後、投票方法の説明があった。

◇ 総会

開催地: 平成22年3月26日

開催場所: 京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール

- 1. 各常任幹事報告 庶務、農学会・科研費、集会、英文誌、和文誌、ホームページ
- 2. 第7回 (平成21年度) 日本育種学会論文賞の発表
- 3. 議事
  - 1) 平成21年度決算報告・会計監査報告
  - 2) 平成22年度予算案の承認
  - 3) 会計監事の選出
  - 4) 内規の改定について  
議事はいずれも異議なく承認された
- 4. その他
  - 1) 次期執行部 (常任幹事) の紹介
  - 2) 次期開催校 (秋田県立大学) の紹介
  - 3) 育種学会における遺伝資源の「アクセスと利益配分」(ABS) に係る事項について
  - 4) その他

◇ 平成21年度決算及び平成22年度予算

(単位: 円)

収入の部	平成21年度決算	平成22年度予算
前年度繰越金	-518,130	2,283,663
会員会費	18,519,500	19,945,000
賛助会員会費	900,000	760,000
別冊等頒布	4,052,580	3,800,000
掲載料・別刷代等	3,670,000	3,900,000
広告料	854,345	850,000
雑収入	180,982	250,000
寄付金	1,100,000	0
印税収入	99,600	0
出版助成金	3,739,250	3,000,000
合 計	32,598,127	34,788,663

支出の部	平成21年度決算	平成22年度予算
I. 事業費	22,076,634	22,005,000
1. 雑誌刊行費	14,468,824	15,390,000
2. 別冊刊行費	3,850,021	3,865,000
3. 大会費	1,200,000	1,200,000
4. シンポジウム費	367,129	400,000
5. 学会賞費	443,880	450,000
6. オンライン版作成費	1,270,500	700,000
7. 名簿作成費	476,280	0

II. 運営費	8,077,770	8,931,600
1. 学会分担金	226,567	360,000
2. 事務担当者手当	400,000	400,000
3. 事務費	1,580,061	2,130,000
1) 庶務	420,405	600,000
2) 編集	926,026	1,180,000
英文誌	889,027	980,000
和文誌	36,999	200,000
3) 集会	118,260	200,000
4) 会計	115,370	150,000
4. 事務委託費	4,401,600	4,401,600
5. 通信費・送料	561,912	600,000
6. 付属印刷物	294,792	300,000
7. 男女共同参画活動費	125,069	140,000
8. 地域活動費	311,407	400,000
9. 雑支出	176,362	200,000
III. 予備費	160,060	3,852,063
IV. 次年度へ繰入	2,283,663	0
V. 運営基金へ繰入	0	0
VI. 学会賞基金へ繰入	0	0
合 計	32,598,127	34,788,663
基金	平成 21 年度決算	平成 22 年度予定
運営基金	16,787,382	16,787,382
学会賞基金	3,250,000	3,250,000
事典委員会	50,437	50,437

### ◇ 学会賞授与・受賞講演

開催日：平成 22 年 3 月 26 日

開催場所：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール

平成 21 年度 日本育種学会賞

- ・荻原保成（横浜市立大学木原生物学研究所）「コムギの核および細胞質ゲノムにおける機能ゲノム科学の展開」
- ・松岡信（名古屋大学生物機能開発利用研究センター）「植物ホルモンの分子生物学的作用機構解明と分子育種による作物の改良」
- ・「コシヒカリ新潟 BL シリーズ」開発グループ（代表者：石崎和彦）「新潟県における「コシヒカリ新潟 BL シリーズ」の開発と普及」

平成 21 年度 日本育種学会奨励賞

- ・竹内善信（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究所）「イネにおける品質・食味関連形質の遺伝解析とその育種的利用」
- ・佐藤豊（名古屋大学大学院生命農学研究科）「イネのシュート構築機構の解明」
- ・塚崎光（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所）「SSR マーカーを利用したネギの育種における応用研究」

### ◇ 第 117 回講演会日本育種学会優秀発表賞

2010 年日本育種学会春季大会（第 117 回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の 15 課題に決定された。

**講演番号 103**：SNP アレイを用いて推定した日本の超多収イネ品種群のゲノム構成 ○山本敏央・米丸淳一・江花薫子・矢野昌裕（農業生物資源研究所）

**講演番号 105**：イネソマクロナルバリエーションの全ゲノム塩基配列解析。新たな変異リソース ○宮尾安藝雄<sup>1</sup>・中込マリコ<sup>1</sup>・大沼貴子<sup>1</sup>・山形晴美<sup>2</sup>・金森裕之<sup>2</sup>・伊川浩司<sup>2</sup>・高橋章<sup>3</sup>・松本隆<sup>1</sup>・廣近洋彦<sup>1</sup>（1. 生物研基盤, 2. STAFF 研, 3. 生物研植物科学）

**講演番号 107**：*In planta* アッセイ系による DNA のメチル化抑制効果をもつ植物成分の検出 ○荒瀬幸子・太田垣駿吾・喜多村啓介・金澤章（北大・院・農）

**講演番号 113**：コシヒカリの第 3 染色体短腕の良食味 QTL におけるゲノム情報を活用した置換系統群の作出 ○堀清純<sup>1</sup>・竹内善信<sup>2</sup>・長崎英樹<sup>1</sup>・安東郁男<sup>2</sup>・矢野昌裕<sup>1</sup>（1. 生物研, 2. 作物研）

**講演番号 211**：イネにおける遺伝子発現情報データベース「RiceXPro」の構築 ○佐藤豊<sup>1</sup>・Antonio Baltazar<sup>1</sup>・竹久妃奈子<sup>1</sup>・本山立子<sup>1</sup>・杉本和彦<sup>1</sup>・南博<sup>2</sup>・釜付香<sup>2</sup>・並木信和<sup>2</sup>・清水裕司<sup>2</sup>・長村吉晃<sup>1</sup>（1. 生物研, 2. 三菱スペース・ソフトウェア（株））

**講演番号 406**：イネ亜種間交雑で生殖的隔離を引き起こす *DOPPELGANGER (DPL) 1* と *DPL2* の解析 ○水多陽子<sup>1,2</sup>・春島嘉章<sup>1</sup>・倉田のり<sup>1,2</sup>（1. 遺伝研・植物遺伝, 2. 総研大生命科学）

**講演番号 407**：花粉形成に必須な遺伝子の重複と喪失が *O. sativa* と *O. glumaepatula* 間の F<sub>1</sub> 花粉不稔の原因となっていた ○山形悦透<sup>1</sup>・山本英司<sup>2</sup>・安益公一郎<sup>2</sup>・Win Khin Thanda<sup>1</sup>・土井一行<sup>1</sup>・Sobrizal<sup>1</sup>・伊藤友子<sup>3</sup>・金森裕之<sup>3</sup>・呉健忠<sup>4</sup>・松本隆<sup>4</sup>・松岡信<sup>2</sup>・芦荻基行<sup>2</sup>・吉村淳<sup>1</sup>（1. 九大院農, 2. 名大生物機能, 3. STAFF 研, 4. 生物研）

**講演番号 501**：浸透圧ストレス下でのイネ根系の分枝を促進する *LMS1* 遺伝子の解析 ○中村真也・出口崇・木富悠花・山内章・犬飼義明（名大院生命農学）

**講演番号 505**：イネ細葉変異体 *slender leaf* の解析 ○吉川貴徳・小野絵里・伊藤純一・長戸康郎（東大農学生命科学）

**講演番号 507**：イネのメバロン酸経路の遺伝子 *SEGMENTED EMBRYO* は胚の分割を抑制する ○高階泰宗・伊藤純一・長戸康郎（東大農学生命科学）

**講演番号 509**：イネの穂の分枝形成に関わる花序メリステム決定遺伝子の解析 ○安野奈緒子<sup>1</sup>・笹尾真史<sup>1</sup>・北口善教<sup>1</sup>・前川雅彦<sup>2</sup>・経塚淳子<sup>1</sup>（1. 東大院農学生命科学, 2. 岡山大資生研）

**講演番号 518**：オオムギの内穎およびリンビ形成に関わる *BPL* 遺伝子のマッピング ○漆川直希・山下優子・武田真（岡山大学資生研）

**講演番号 717** : イネの耐湿性獲得に重要な Radial O<sub>2</sub> loss バリアの形成組織における網羅的遺伝子発現解析 ○塩野克宏<sup>1,2</sup>・Al Imran Malik<sup>3</sup>・山崎聡<sup>1</sup>・西澤直子<sup>1,4</sup>・長村吉晃<sup>5</sup>・堤伸浩<sup>1</sup>・Timothy D Colmer<sup>3</sup>・中園幹生<sup>1</sup> (1. 東大農学生命科学, 2. 日本学術振興会特別研究員 PD, 3. 西オーストラリア大学, 4. 石川県立大生物資源工学, 5. 農業生物資源研究所)

**講演番号 720** : テオシント (*Zea nicaraguensis*) の耐湿性に関わる特性 ○安彦友美<sup>1</sup>・間野吉郎<sup>2</sup>・塩野克宏<sup>1,3</sup>・堤伸浩<sup>1</sup>・中園幹生<sup>1</sup> (1. 東大農学生命科学, 2. 農研機構・畜産草地研究所, 3. 日本学術振興会特別研究員 PD)

**講演番号 P018** : イネの遺伝子発現ネットワーク構築 ○濱田和輝<sup>1</sup>・山本直樹<sup>1</sup>・望月孝子<sup>2</sup>・諏訪部圭太<sup>3</sup>・倉田のり<sup>2</sup>・矢野健太郎<sup>1</sup> (1. 明治大農・バイオインフォ, 2. 遺伝研植物遺伝, 3. 三重大生物資源)

### ◇ 男女共同参画推進委員会からの報告

男女共同参画推進委員会では、春季講演会 2 日目にランチョンセミナーを開催した。京都大学大学院生命科学研究所教授である稲葉カヨ氏（京都大学女性研究者支援センター長）に、「京都大学の男女共同参画の現状—女性研究者支援センターの活動を通して—」と題して、京都大学における男女共同参画活動の経緯や、ポジション獲得支援システムや環境整備事業などの活動をご紹介いただいた。実際に支援を受けた出席者からの体験談なども交え、女性研究者支援の現状について意見交換を行った。セミナーの概要については、育種学会ホームページへ掲載する。

このほか、大会期間中の託児室設置（延べ 7 人が利用）に対する支援を行うとともに、男女共同参画委員会の活動について、大会出席者等を対象としたアンケート調査を行った。本調査の集計結果についてはホームページ等で報告するとともに、今後の活動方針策定の参考とする予定である。

### ◇ 日本育種学会第 117 回講演会 選定課題記者発表報告

発表日時：平成 22 年 3 月 18 日 11:00 ~ 12:15

会場場所：東京大学弥生講堂アネックス・エンゼル研究棟講義室（東大農学部正門入って左）

出席者：幹事長 矢野昌裕、庶務幹事 伊藤純一

参加報道機関：共同通信、科学新聞、日本農業新聞、化学工業日報、日経バイオテック社の計 5 社（5 名）

平成 21 年 3 月 26（金曜）、27（土曜）に京都大学（京都市）で行われた日本育種学会第 117 回講演会の講演課題（計 319 課題）の中から常任幹事によって選定された以下の 4 つの研究内容（5 課題）について記者発表をした。

### 【記者発表課題】

(1) 講演番号：103「SNP アレイを用いて推定した日本の超多収イネ品種群のゲノム構成」山本敏央・米丸淳一・江花薫子・矢野昌裕（農業生物資源研究所）

(2) 講演番号：307「アレルゲン低減化コシヒカリ系統の開発戦略」若佐雄也・松田幹・高岩文雄（農業生物資源研究所、名古屋大学大学院生命農学）

(3) 講演番号：611「マーカー選抜によるハクサイ根こぶ病抵抗性実用品種の育成」松元哲・宮崎俊夫・島山勝徳・高下新二・加藤丈幸・吹野伸子・近藤友宏（野菜茶研、(株)日本農林、三重大生物資源）

(4) 講演番号：612「ハクサイ F1 品種「秋理想」の根こぶ病抵抗性に連鎖する DNA マーカーの作成」加藤丈幸・松元哲・島山勝徳・吹野伸子（野菜茶研、三重大生物資源）

(5) 講演番号：618「ラーメン用小麦品種「ちくし W2 号」の育成」古庄雅彦・塚崎守啓・松江勇次・内村要介・山口修・馬場孝秀・高田衣子・宮崎真行・浜地勇次（福岡県農業総合試験場、中央農研北陸センター）

それぞれの課題について発表者に説明用レジュメを作成して頂き、それに基づいて矢野と伊藤が説明し、質疑応答を行った。記者会見後、講演番号 103 の課題が日本農業新聞（3/20）、日経バイオテック（3/25）、科学新聞（4/2）、講演番号 611、612 の課題が日本農業新聞（3/24）、講演番号 307 の課題が日本農業新聞（3/26）に掲載された。

### 談話会だより

#### ◇ 近畿地区

近畿作物・育種研究会

近畿作物・育種研究会公開シンポジウムが、2009 年 11 月 28 日（土）に奈良県農業総合センターにおいて開催された。シンポジウムでは、以下の 5 題の講演があった。参加者は約 50 名であり、活発な議論が行われた。また、2009 年 10 月 17 日（土）には、奈良県五條市西吉野の農業生産法人王隠堂農園において第 2 回現地検討会を行った。

シンポジウム講演：奈良県における稲・麦・大豆栽培の現状と課題。土井正彦（奈良県農業総合センター）／兵庫県における自給率向上対策—地産地消の取り組み—。牛尾昭浩（兵庫県立農林水産技術総合センター）／イネの飼料利用技術の現状と研究課題—飼料イネを利用した周年放牧の実践現場から—。千田雅之（中央農業総合研究センター）／米粉利用の現状と米粉研究。荒木悦子（近畿中国四国農業研究センター）／ダイズ種子に冠水抵抗性を付与する育種。奥本裕（京都大学大学院農学研究科） 築山拓司（京都大学大学院農学研究科）

## ◇ 九州地区

## 九州育種談話会

2009年12月11日(金)に第4回九州育種談話会を九州沖縄農業研究センター(実行委員長:松永亮一)において開催した。参加人数は講演会(特別講演5題,一般講演18題)48名,懇親会37名であった。プログラムは下記の通りである。また,2010年度は佐賀大学において開催することを決定した。

日時:2009年12月11日(金)

特別講演:13:00~15:45

ポスター発表:16:00~17:30

会場:九州沖縄農業研究センター 大会議室

懇親会:九州沖縄農業研究センター 第2会議室

## 【特別講演】

アジアにおけるトビイロウンカの抵抗性品種加害性の現状:松村正哉(九州沖縄農業研究センター難防除害虫研究チーム)/ゲノム解読後のキュウリ研究の進展について:星良和(東海大学農学部応用植物科学科植物環境科学研究室)/ウイルス抵抗性遺伝子組換えサツマイモの作出とその評価:岡田吉弘(九州沖縄農業研究センターサツマイモ育種研究チーム)/福岡県におけるイチゴ育種の現状:片山高雄(福岡県農業総合試験場野菜育種部イチゴ育種チーム)/長崎県におけるビワ育種の現状と今後の展望:稗圃直史(長崎県農林技術開発センター果樹研究部門ビワ・落葉果樹研究室)

## 【一般講演(ポスター発表)】

九州に適した酒米「吟のさと」の酒造適性と普及~筑後地方を中心にして。坂井真<sup>1</sup>・梶亮太<sup>2</sup>・片岡智守<sup>1</sup>・田村克徳<sup>1</sup>・田村泰章<sup>1</sup>(1.九州農研,2.東北研)/高温登熟性に優れる極良食味水稻品種「元気つくし」の育成。和田卓也・坪根正雄・尾形武文・浜地勇次・松江勇次・井上敬・大里久美・安長知子・川村富輝(福岡農総試)/焼酎酒質にすぐれた煌二条の育成。川田尚之<sup>1</sup>・小田俊介<sup>2</sup>・土井芳憲<sup>3</sup>・佐々木昭博<sup>3</sup>・田谷省三<sup>1</sup>・八田浩一<sup>1</sup>・藤田雅也<sup>1</sup>・久保堅司<sup>1</sup>・塔野岡卓司<sup>2</sup>・堤忠宏<sup>4</sup>・谷口義則<sup>4</sup>・関昌子<sup>2</sup>・平将人<sup>4</sup>・波多野哲也<sup>1</sup>(1.九州農研,2.作物研,3.農林水産省,4.東北農研)/イネ貯蔵タンパク質 mRNA の特定小胞体への局在化に関する Tudor-SN に関する突然変異体の選抜と解析。藤本若菜<sup>1</sup>・Thomas W Okita<sup>2</sup>・佐藤美緒<sup>2</sup>・熊丸敏博<sup>1</sup>(1.九大院農,2.ワシントン州立大)/The small GTPase Rab5a is essential for intracellular transport of glutelin precursor from Golgi apparatus and endosomal membrane organization in developing rice endosperm. Masako Fukuda<sup>1</sup>, Mio Satoh<sup>2</sup>, Haruhiko Washida<sup>2</sup>, Aya Sugino<sup>2</sup>, Andrew J. Crofts<sup>2</sup>, Thomas W. Okita<sup>2</sup>, Yasushi Kawagoe<sup>3</sup>, Masahiro Ogawa<sup>4</sup>, Hikaru Satoh<sup>1</sup>, Toshihiro Kumamaru<sup>1</sup>(1. Fac. Agr. Grad. Sch. Kyushu Univ., 2. Inst. of Biological Chemistry Washington State Univ., 3. NIAS, 4. Dept. Life Sci. Yamaguchi Pref. Univ.)/イネの種

子長に関する遺伝子座 GS3 の多様性。鷹野典子<sup>1</sup>・Hui Jiang<sup>2,3</sup>・久保貴彦<sup>1,4</sup>・松本隆<sup>5</sup>・金森裕之<sup>6</sup>・Susan McCouch<sup>2</sup>・吉村淳<sup>1</sup>・土井一行<sup>1,7</sup>(1.九大院農,2.コーネル大,3. Chengdu Inst., Biol., CAS, 4. 遺伝研,5. 生物研,6. STAFF 研,7. 名大院生命農学)/遺伝子集積効果によりイネのツマグロヨコバイ抵抗性が增大する。安井秀<sup>1</sup>・藤田大輔<sup>1,2</sup>・吉村淳<sup>1</sup>(1.九大院農,2. IRRI)/インド型品種 ADR52 由来トビイロウンカ抵抗性遺伝子 *bph20* (t) および *Bph21* (t) に関する近似同質遺伝子系統の育成と耐虫性評価。屋良朝紀<sup>1</sup>・Khin Khin Marlar Myint<sup>1</sup>・Phi Cong Ngyuen<sup>2</sup>・松村正哉<sup>3</sup>・吉村淳<sup>1</sup>・安井秀<sup>1</sup>(1.九大院農,2. Dept. Gen. Eng. Inst. Agri. Genet., 3. 九州農研)/Mapping of resistance genes to bacterial blight in rice. Taura, S. et al. (Kagoshima Univ.)/カンキツグリーンング病罹病樹の葉内タンパク質の動態解析。菊池悦男<sup>1</sup>・荒木朋洋<sup>1</sup>・斉藤彰<sup>2</sup>(1.東海大農,2.九州農研)/ピーマンにおけるネコブセンチュウ抵抗性素材の評価および探索。杉田亘(宮崎総農試)/MDA 法によって増幅を行ったダイズ突然変異体ライブラリーを鋳型とした TILLING 法による変異の検出。中島皓子・穴井豊昭(佐賀大農)/ダイズ種子イソフラボン含量の改変を目指した UDP-グルコース:イソフラボン 7-O-グルコシルトランスフェラーゼ突然変異体のスクリーニング。浅田真央・穴井豊昭(佐賀大農)/花茎採取用ニラ品種を用いた四季咲き性観賞用 *Allium* 属種作出の試み。松田靖・乙丸泰宏・村田達郎(東海大農)/キュウリ栽培品種間にみられるクロマチン構造の違いについて。松田昌樹 他(東海大農)/アントシアニン欠質ソバ系統のフラボノイド合成系における遺伝子発現とソバ由来 MYB 転写因子との関連性。松井勝弘(九州農研)/ソバにおける短花柱花の雌蕊特異的に発現するタンパク質と異形花型自家不和合性との関係。黒田真一(九州農研・日大)/ソバから単離した2つの DFR 遺伝子の分子遺伝学的特徴。小森敏行(九州農研・長岡技科大)

安井秀(九州大学大学院農学研究院)

## 日本育種学会会員異動(2010.1.21 ~ 2010.4.20)

◇普通会員入会:大橋美帆子,笹間博子,廣瀬亜矢(北海道),高溝正(栃木),王三紅(千葉),渡辺瑛介(神奈川),清水徳朗,本間義之,山本寛人(静岡),奥田康仁(鳥取),坂本悠(長崎)

◇学生会員入会:大谷修平(山形),橋本早記,李学佳(東京),今小路永嗣(奈良),松本直也(鳥取),HOANG VAN NAM(福岡)

◇外国会員入会:LEE SANG-YEONG, LEE YUN-SANG, PARK CHUL SOO(大韓民国)

## 住所変更等

◇普通会員:神野裕信(北海道),川村陽一,神田伸一

郎（青森），小林史典，山口誠之（岩手），小西省吾（山形），入来規雄，勝田真澄，小長谷賢一，佐藤宏之，中川仁（茨城），角井宏行（千葉），秋吉美穂（東京），片山義博（神奈川），一家崇志（静岡），平井篤志，吉田哲也（愛知），新関稔（大阪），吉田晋弥（兵庫），鷺田治彦（奈良），石井卓朗，船附秀行（広島），秀島瑠満子（佐賀），

向島信洋（長崎）

◇学生会員：小野聖二郎（静岡）

### 逝去

木下俊郎（北海道），戸田修（富山）  
慎んでご冥福をお祈りいたします。